

1. 開催概要

展覧会名	プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	
開催施設名	会期	入場者数
国立西洋美術館	2018 年 2 月 24 日～5 月 27 日	304,004 人 (内覧会等含む)
兵庫県立美術館	2018 年 6 月 13 月～10 月 14 日	154,486 人

●開催概要

※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入

※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入

本展では、歴代のスペイン王室の美術コレクションを有する国立プラド美術館から、17世紀のスペイン絵画の黄金時代を代表する画家・ベラスケスの大作を中心に、ティツィアーノ、ルーベンス、リベラ、ムリーリョなどの油彩画計 61 点と関連書籍 9 点を展示。

プラド美術館には全ベラスケス作品の半数近く所蔵されているが、国民的画家としての重要性からまとも美術館外へ貸し出されることは極めて限られていた。しかし、本展ではプラド美術館と読売新聞社の長年の友好関係のもと《王太子バルタサル・カルロス騎馬像》を含むベラスケスの傑作 7 点が一堂に公開され、その貴重な機会の実現について、主に美術展業界や美術愛好家で話題となった。メディアでは、NHK の「日曜美術館」で「静かな絵画革命～宮廷画家ベラスケスの実験～」と題して本展が取り上げられ(4/15・22放送)、好評につきアンコール放送が 8 月、12 月(4K 放送)に実施された。雑誌では、「日経おとなの OFF1 月号」(日経 BP 社)や「芸術新潮 12 月号」(新潮社)で特集が企画されるなど反響が大きかった。

また、本展は日本とスペインの外交関係樹立 150 年の記念行事として位置づけられ、2017 年にスペインのフェリペ 6 世国王と安倍晋三首相の立会いのもと開催合意書を交換したのち、スペイン大使館としても本展を 150 周年記念事業の最重要案件として広く周知し、日本とスペインの掛け橋となる役割を果たした。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入

※別紙参照

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうることを記入

- ・作品が動かされる際には、梱包、トラック積み込み、トラック輸送、荷下ろし等、常に主催者スタッフが立ち合い・同行し、安全性の確認を絶えず行っていた。
- ・作品の展示作業にも、必ず主催者スタッフが立ち合い、現場で万が一の事故が起きないように注意喚起をしていた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

日本では、読売新聞社の主催で過去4回の「プラド美術館展」が開催されている(2002、2006、2011、2015年)。今回、日西外交樹立150周年を記念して、同館のコレクションの要であるベラスケスの傑作7点(ベラスケス作品7点という数は、プラド美術館がベラスケスの作品を一度に貸し出すことのできる最大点数)が一度に日本で紹介できたことは、「国民が優れた美術品・美術展を鑑賞する機会を充実させる」という趣旨に合致したものである。本展を通じて、プラド美術館と日本側主催者の関係性はさらに強固なものとなり、将来ふたたびプラド美術館の名品をまとまって紹介する可能性も高く、日本国民により良い美術鑑賞の機会を提供することにつながるといえる。

こうして日西外交の記念年に、日本国民にスペインを代表する画家の傑作を公開できたことは意義深く、芸術を通して他国の文化・歴史を理解することは、特に若年層にとって大切な機会であったと考える。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立西洋美術館、読売新聞社

●収入

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会 収入	【入場料】※1 大人 1,600円 23,516 大学生 1,200円 (48,384) 高校生 800円 中学生以下 無料 有料総者数21万人(全体の70%)	万円
	【図録売上】※2 公式図録 2,936 2,700円、10,872冊 (4,704) ミニ図録 1,473 1,300円、11,327冊 (2,730)	
	【関連グッズ売上】※6 2,500 (1,050)	
	【その他】 音声ガイド 2,951 550円、利用率22.5% (2,310)	
その 他の 収入	【協賛金・寄附金】 8,408 (7,000)	
	【補助金・助成金】 (※開催分担金を含む。)	
	【その他】※3 読売新聞社、日本テレビ、BS日テレ による補填 20,112 (7,834)	
赤字	【補填内容】 ()	
収入総額		61,896 (74,012)

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画 準備 等 基本 経費	【借用料】 19,815 (20,700)	万円
	【謝金】 ※著しく高額の場合は、その理由を別紙 (任意様式)に記入	
	【保険料】 ※制度適用された場合の金額 733 (900)	
	【輸送費】 6,257 (5,200)	
	【クーリエ等招聘費】 1,445 (1,500)	
	【図録制作費】※4 ※入場者数が見込みより減少したため印刷数を削減 2,524 (6,300)	
設 営 ・ 運 営 等 会 場 関 係 経 費	【その他印刷費】 1,243 (1,200)	
	【企画構成費】 1,000 (1,000)	
	【その他(交渉費・職員旅費等)】 1,320 (1,500)	
	【広告・宣伝費】 9,309 (10,000)	
	【展示施工費】 1,761 (2,000)	
	【会場事務費】 709 (1,000)	
利 益	【監視・警備費】 4,131 (4,500)	
	【その他】※5 国立西洋美術館の収入配分 8,302 (14,112)	
	グッズ販売手数料など(西美財団、プラト) 1,986 (2,800)	
	外部委託券売手数料 1,361 (1,300)	
【利益の使途】 0		
支出総額		61,896 (74,012)

※1～5: 当初の入場者数見込み42万人を大きく下回り30万人という結果になったため、予算から大幅な減額となった。

※6: 営業努力および、グッズ収益の%が予算時より多くなったため収入が増額。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

兵庫県立美術館、読売新聞社

●収入

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入	【入場料】 一般 1,600円 13,526 大学生 1,200円 (20,475) 75歳以上 800円 高校生以下無料	万円
	【図録売上】 公式図録 1,408 2,700円×5,218冊 (2,352) ミニ図録 567 1,300円×4,369冊 (1,365)	
	【関連グッズ売上】 展覧会グッズ 1,445 (1,890)	
	【その他】 音声ガイド 1,364 550円 (1,155)	
	【協賛金・寄附金】 2,585 (1,000)	
その他の収入	【補助金・助成金】 (※開催分担金を含む。)	
	【その他】 兵庫県立美術館、読売新聞社、 読売テレビ 5,018 (1,272)	
	【補填内容】	
赤字		
収入総額		25,913 (29,509)

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	【借用料】 万円 12,790 (13,800)	
	【謝金】 ※著しく高額の場合は、その理由を別紙 (任意様式)に記入	
	【保険料】 ※制度適用された場合の金額 488 (600)	
	【輸送費】 4,171 (3,500)	
	【クーリエ等招聘費】 963 (1,000)	
	【図録制作費】 1,280 (3,200)	
	【その他印刷費】 530 (500)	
	【企画構成費】 800 (800)	
	【その他(交渉費・職員旅費等)】 440 (500)	
	【広告・宣伝費】 1,603 (1,800)	
設営・運営等会場関係経費	【展示施工費】 729 (1,000)	
	【会場事務費】 139 (200)	
	【監視・警備費】 1,007 (1,300)	
	【その他】	
利益	【利益の使途】 グッズ販売手数料 417 (609)	
	外部委託券売手数料 405 (600)	
	雑費 151 (100)	
支出総額		25,913 (29,509)

※各区分又は総額において、予算額と決算額において30%以上の開きがある場合は、その理由を別紙(任意様式)に記入

※利益が生じた場合は、その使途を必ず具体的に明記

※特に秘すべき事項がある場合には、公開用資料を別途作成し、適宜区分を整理又は工夫して提出